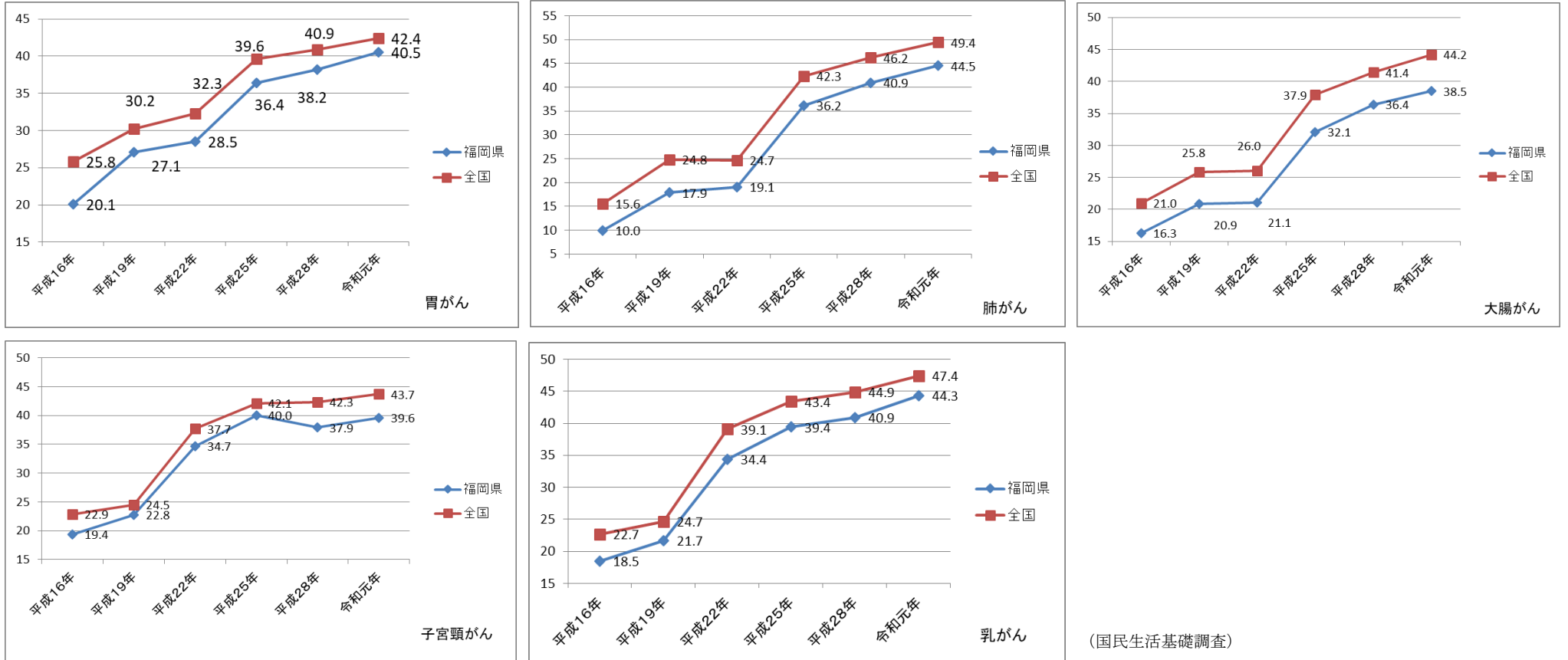


福岡県における「がん検診・がん診断・がん死亡」の状況

[がん検診]

● 受診率の推移

受診率は男女とも過去から増加傾向であり、全国順位も上昇傾向。しかし、子宮頸がん検診に限り近年横ばい。



● 年齢階級別の受診率

男性より女性の受診率が低く、年齢階級別では60～69歳及び検診対象の初年度含む階級が低い傾向。

	胃がん				肺がん				大腸がん				子宮頸がん		乳がん	
	福岡県		全国		福岡県		全国		福岡県		全国		福岡県	全国	福岡県	全国
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性
20～24歳	46.2%	35.4%	48.0%	37.1%	48.9%	40.4%	53.4%	45.6%	42.6%	34.7%	47.8%	40.9%	15.6%	15.1%		
25～29歳													36.0%	39.6%		
30～34歳													43.8%	49.4%		
35～39歳													48.6%	53.0%		
40～44歳	44.0%	38.1%	46.2%	34.8%	42.0%	43.5%	50.3%	42.1%	40%	34.5%	44.4%	37.4%	51.2%	56.1%	51.8%	53.3%
45～49歳	46.6%	37.0%	48.1%	36.8%	50.0%	40.7%	52.8%	45.5%	44.4%	34.4%	47.0%	40.7%	48.7%	52.9%	51.3%	52.6%
50～54歳	50.7%	39.3%	49.7%	39.5%	53.9%	42.8%	54.7%	48.5%	47.4%	38.2%	49.0%	43.1%	45.1%	50.9%	50.3%	52.3%
55～59歳	51.4%	35.3%	53.4%	39.9%	52.1%	44.9%	59.0%	49.6%	45.8%	38.3%	52.9%	43.7%	45.5%	44.6%	48.5%	49.7%
60～64歳	45.8%	34.3%	49.7%	36.7%	52.4%	39.8%	55.8%	45.2%	41.0%	32.6%	49.8%	40.9%	32.6%	36.7%	40.9%	42.4%
65～69歳	40.4%	29.9%	42.3%	35.3%	43.9%	32.7%	49.0%	43.5%	38.4%	31.3%	44.5%	39.7%	23.4%	30.1%	27.1%	35.7%

(令和元年国民生活基礎調査)

● 受診機会の割合

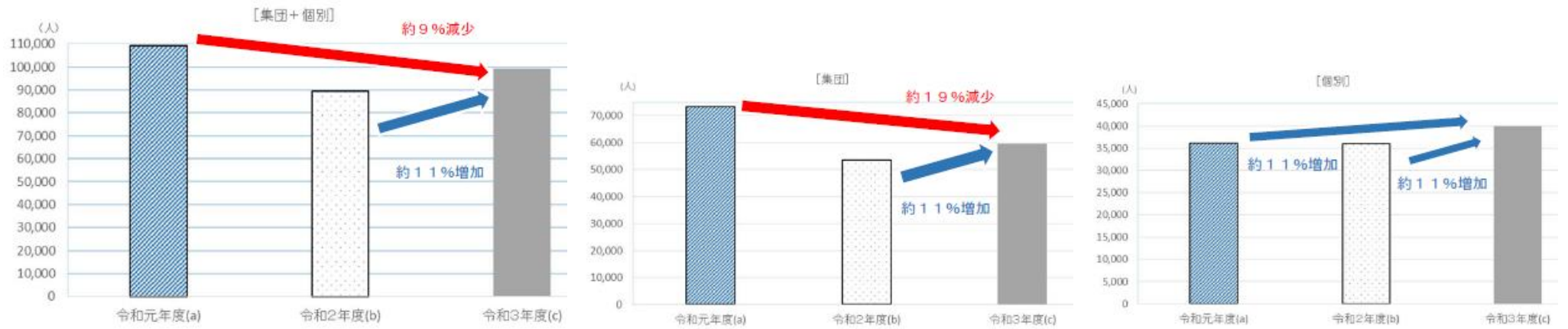
職域(勤め先)の割合が4～7割と最も高い。

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
市町村	12.0%	13.3%	14.5%	22.2%	25.8%
勤め先	63.8%	69.2%	64.8%	40.0%	42.1%
その他(人間ドッグ等)	22.3%	14.3%	18.4%	34.3%	30.0%
不詳	3.3%	4.3%	3.4%	4.6%	3.7%

(令和元年国民生活基礎調査)

● コロナの影響

市町村がん検診のうち、令和3年度胃がん検診受診者数は、令和2年度と比較して約11%増加、しかしコロナ禍前の令和元年度と比較して約9%減少。受診者数は回復傾向であるが、未だ受診控えが懸念される。



(福岡県がん感染症疾病対策課調査)

[がん診断]

- ・令和3年のがん診断数は、令和2年と比較すると約8%増加、コロナ禍前の令和元年と比較すると同水準になっている。
- ・がん種別にみると、大腸・乳・子宮頸がんはコロナ禍前の令和元年より診断数が上昇しており、肺がんは同程度、胃がんは11.3%減少しており、胃がん診断数が最もコロナ禍の影響を受けていると考えられる

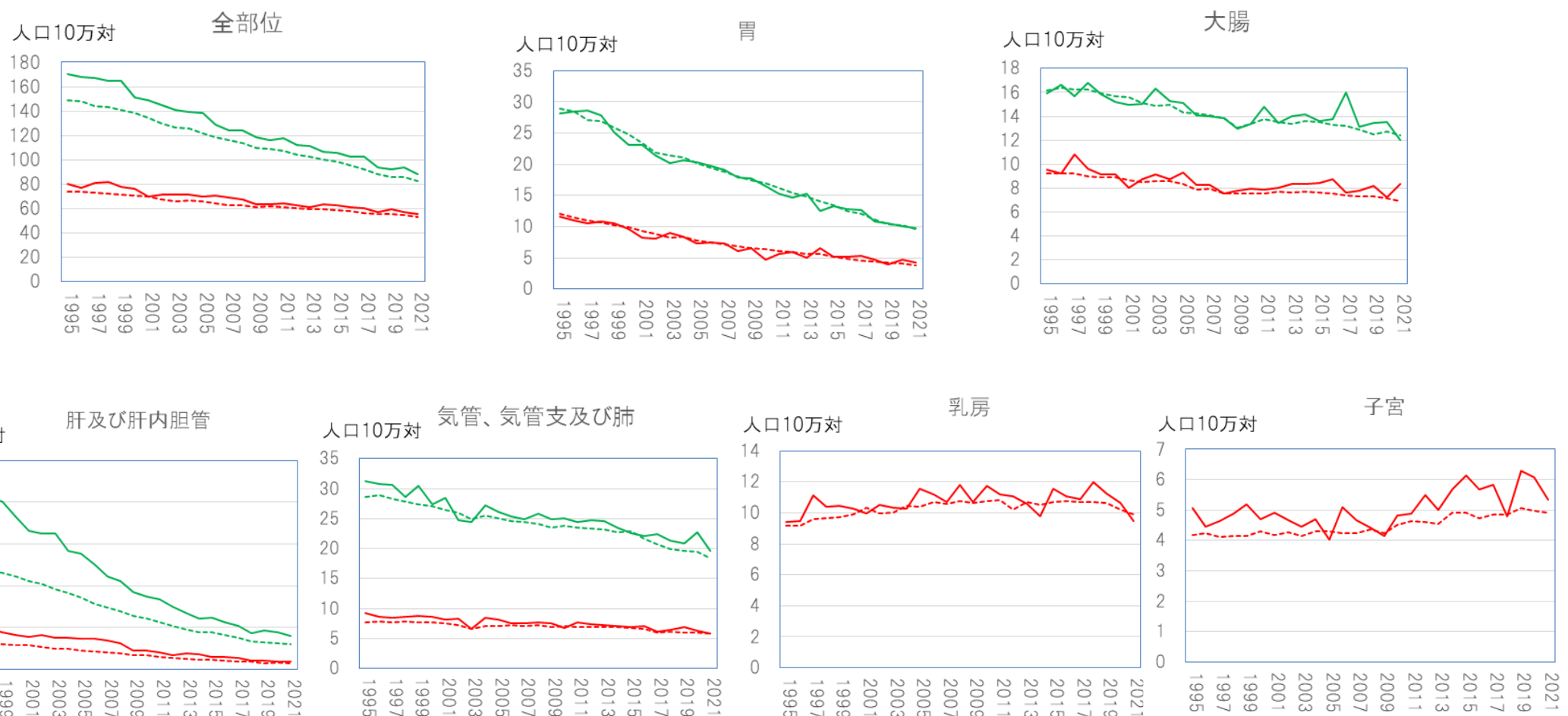
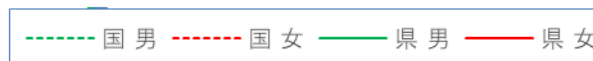
【診断数】

	令和元年	令和2年	令和3年	R2年/ R元年	R3年/ R2年	R3年/ R元年
全部位	38,959	36,206	38,922	92.9%	107.5%	99.9%
胃	3,683	3,021	3,268	82.0%	108.2%	88.7%
肺	4,448	4,403	4,434	99.0%	100.7%	99.7%
大腸	5,241	4,797	5,450	91.5%	113.6%	104.0%
乳	4,111	3,785	4,146	92.1%	109.5%	100.9%
子宮頸	1,563	1,446	1,677	92.5%	116.0%	107.3%

(県内がん診療連携拠点病院含む25のがん診療病院における院内がん登録集計)

[がん死亡]

- ・75歳未満年齢調整死亡率は、過去から一貫して減少傾向。
- ・胃・男性肺・肝臓がんが主としてこの減少率に寄与し、大腸・乳・子宮がんは減少率が鈍い。
- ・胃がんはヘリコバクター・ピロリ菌感染率の低下、肝臓がんは肝炎ウイルス感染率の低下、男性肺がんは喫煙率の減少が考えられる。



(人口動態統計調査)